

源氏系図

545
夕
61



たいとんワ

太占る旨

あつてゐるものゝ、ゆく井を掘りて
かりきりなる水は、さうなれぬひね
もあつてゐるものゝ、

前坊

沈の清くもあつてゐる
秋好もゝゝ 母六嬢は清く
何ひゝゝ 母六嬢は清く
母六嬢は清く

今上きみかみ 母はは 東宮とうぐう 女を 御み 弟あに の 御み 弟あに —

あーのーのーふー二歳ふたさい へん ちやうとあふ
まふ ちやうとあふ ちやうとあふ ちやうとあふ
ちやうとあふ ちやうとあふ ちやうとあふ ちやうとあふ

女を 一いち 言ご

わーのーのーのーのーのー

あふあふあふ

あふあふあふ

あふあふあふ

ちやうとあふ ちやうとあふ ちやうとあふ ちやうとあふ
ちやうとあふ ちやうとあふ ちやうとあふ ちやうとあふ
ちやうとあふ ちやうとあふ ちやうとあふ ちやうとあふ

二ふた 女を 御み 弟あに 母はは 帝てい 孫そ 女を 御み 弟あに

ちやうとあふ ちやうとあふ ちやうとあふ ちやうとあふ
ちやうとあふ ちやうとあふ ちやうとあふ ちやうとあふ
ちやうとあふ ちやうとあふ ちやうとあふ ちやうとあふ

女を 御み 弟あに

ちやうとあふ ちやうとあふ ちやうとあふ ちやうとあふ

あふあふあふ

あふあふあふ

あふあふあふ ちやうとあふ ちやうとあふ ちやうとあふ

ふくまのまゝに、つたふも君を
えり、ふまのまゝに、つたふも
ふまのまゝに、つたふも
ふまのまゝに、つたふも

ふまのまゝに、つたふも
ふまのまゝに、つたふも
ふまのまゝに、つたふも
ふまのまゝに、つたふも

ふまのまゝに、つたふも

ふまのまゝに、つたふも

ふまのまゝに、つたふも

ふまのまゝに、つたふも
ふまのまゝに、つたふも
ふまのまゝに、つたふも
ふまのまゝに、つたふも

ふまのまゝに、つたふも

ふまのまゝに、つたふも
ふまのまゝに、つたふも
ふまのまゝに、つたふも
ふまのまゝに、つたふも

なや濃時より孫いなりわな
上歸のふこい後よふつひ孫人
一両言 母未まふ

是としつとまのふく孫い孫て
六睡院のふり所いふを孫わね
大將ふひとわい

め二ま 母未まふ

能ふわふは肉の海いふふふふ
大將をまふふふふ

六睡院

母桐つかのふ

七歳より孫をわたり十二
ふんふふふふふ中ねふふふ
ふふふふふふふふふふふ
大ね通ふふふふふふふふ
夫ふふふふふふふふふふ
言ふふふふふふふふふ
すふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ
夕露方大ね 母ふふふ

坊一人志井がやうくあつた
名をよめるよふらあをい

侍従宰相 母三人

志井のよめるよふらあをい
よめるよふらあをい

源軍おの 母三人

よめるよふらあをい
よめるよふらあをい
持おのよめるよふらあをい
よめるよふらあをい

上志井のよめるよふらあをい
頭おの 母三人

竹河のよめるよふらあをい
よめるよふらあをい
よめるよふらあをい
よめるよふらあをい
よめるよふらあをい

四佐少将 母三人

一品のよめるよふらあをい
侍那のよめるよふらあをい

替一人志井りぢ。一人きよのま

やどり

童母

なよりうゑふにひかにあふらのきき
あたまひし。時うきあふらる人

ち良君いあふ

春うまあは 母に東上

ふくもあふらるあふくふらる人

中君あふら

にまふらるいあふ

三君 母あ肉あふのすま

四君 母に東上

五君 母あふ

六君 母あふらるあふらる人

六君 母あ肉あふのすま

なよりあふらるあふらる人

童母

もふのあふらるあふらる人
あふらるあふらるあふらる人
あふらるあふらるあふらる人

竹溪母のあめ

梅くまよ六條院よりふりしひな
ゆむらひあ一人

童ま

日

け人三人りね下米薩院の御堂の
志くよあ蔵樂まひ孫

ま沙方 せうりーのこ

りう勢臨て後母あよ具てあ
の太師のいふほねあつて

かへはあひ孫一人

四ま 母弟高敏めは

お弟あよりくはねあひ孫

一人

師ま

かへはあひ孫院の御堂のいふ

あよのあひ孫まよあひ孫あひ孫

え孫一人

ハ高 母を人たか

わねとーおの井は十の井のふふふ

一言 母いふる海の人たか

いふ海の人たか 竹河のふふ

ぬいふふのふたか

一言 竹河のふふ

ぬいふふのふたか

竹河のふふ 竹河のふふ

一言 母いふる海の人たか

ぬいふふのふたか

ぬいふ

前ふふ

あふいふふふふふふふふふふ

いふふふふふふふふふふふ

いふふふふふふふふふふふ

先帝

あふいふ

いふふふふふふふふふふふ

あふいふ

満ちぬ院 名いふふふ

あふいふふふふふふふふふふ

あふいふふふふふふふふふふ

源氏家
如字

源口納言

ふさふさなつねに

つゝ

舞一人

中將

侍

氏 右 補

以上之人に倣ふもの君大ねある
 いふこと——時父の如くはひはあ
 人

乃海内之政大歸之振政

あまのついでに乃月より書

被信太政大臣 母三子

了りつゝは、薩人かたわらきつゝ一宮を
 御養育。正四位下は、小室相中將
 と成る。按中納言とてちやうど
 持大納言とくちを大納言と爲すに如
 肉大納言なり。系は大政大臣の
 トもちなり。會ともり信も信へる
 よし。ゆゑ又の名もふんば

六十年

わが業よきとて山へ出づの如じといふ
まづいふとて人死なりとて
中將弁なりとていふといふ
こゝろ人なりとていふといふ
善人なりといふといふ

友人納言

書之

この二ハ海氏三條宮へ嫁り給へ
と云ふ乃ちひまづ世にあり

給一人おうらなうらんあり
をいふもまほしき事なれども
に遠く事やあらねども
いふまうら——
あつたうとぬ相國もあら——
いふまうらふにふたつのおうら
なうら——

おまほしき事やあらねども
しめよまうらふにふたつのおうら
いふまうら——

幸おちよき事やあらねども
いふまうらふにふたつのおうら
しめよまうらふにふたつのおうら
いふまうら——

いふまうらふにふたつのおうら
しめよまうらふにふたつのおうら
いふまうら——

むろく乃尚侍 （まうし） ぬりかろし

四ノ一ノ夕形のとろろの〜く

〜は〜く〜く〜く〜く〜く

むつ〜の春〜の〜の〜の〜の

〜尚侍〜の〜の〜の〜の〜の

か〜の〜の〜の〜の〜の

弘徽殿の侍 ぬり〜の〜の〜

〜を〜の〜の〜の〜の〜の

夕霧ノ中室 ぬり〜の〜の〜の

〜の〜の〜の〜の〜の〜の

（あやめ）
とに君 ぬり〜の〜の〜の〜人

二條太政大臣

中権亮のゆめ〜の〜の〜の

たろたろ〜の〜の〜の〜の

〜の〜の〜の〜の〜の〜の

右大臣

以舟

〜の〜の〜の〜の〜の〜の

男一人

藤系殿の御

も権現御位の時や御うきふる
四位少将

父おゝおのえき志願一なるは
氏乃御きく人よはるるやみ
かへてのきなりいもつて人
ちや せん 辨

この二人に海はたから月夜のひきた
つてもかゝる心陣の車もく
もつてお宿一由にさうすむわて

強人の御さうちや人いありき
さうさなりきふゆねまのよを
かゝるおむいの人や

弘徽殿大后

も権現の御母あひひ。皇太后
うせたまひぬわ。うわねのふ

御言山方

死のえきもの。ふんね
致仕大臣室

ら上あまの御^みことみかたあり給^{たま}ひ
あ^あのゆ^ゆ—あ^あのま^まのち^ちのち^ちのち^ちに
ま^まのち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ち
な^なのち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ち
ま^まのち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ち

き大^{だい}作^{さく}

竹^{たけ}河^{がわ}のち^ちのち^ち

如^{ごと}

夕^{ゆふ}露^るのち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ち

花^{はな}人^{ひと}のち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ち
給^{たま}ふ

名^な大^{だい}作^{さく}

こ^このち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ち
名^な大^{だい}作^{さく}

こ^このち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ち
こ^このち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ち
を^をのち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ち
太^{たい}政^{せい}大^{だい}作^{さく}のち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ちのち^ち

あがり
頭つね

源氏大ねいふいふ——時あはる

けちのいふいふ出づあつふいふ

ふいふのふいふいふいふ——人

あふいふいふいふ
あふいふいふ

あふいふいふいふいふいふいふいふ

あふいふいふいふいふいふいふいふ

あふいふいふ

あふいふいふいふいふいふいふいふ

あふいふいふいふいふいふいふいふ

あふいふいふいふいふいふいふいふ

あふいふいふいふいふいふいふいふ

あふいふいふいふいふいふいふいふ

あふいふいふいふいふいふいふいふ

あふいふいふいふいふいふいふいふ

あふいふいふいふいふいふいふいふ

あふいふいふいふいふいふいふいふ

あふいふいふいふいふいふいふいふ

あふいふいふいふいふいふいふいふ

あふいふいふいふいふいふいふいふ

神くさう舞——人竹河よきと
中ねいふ山お暇——
右共遠きく北冬旅なりや
心りなをきつは、そのえき乃
目由——いなき——人
右大難——ぬおる——
は二人むつゝの君六条港よりふ
くふふれ——時と来路ふも舊
流乃流智さくこの日ある——きあ
日よりぬふ——く竹河——

右中——并回奏——右大井
み中ね——ぬおる——
竹河よけは回奏よぬわ——ね
まふ村とぬわ——細いぬわ——
わ船下よかぬれきくくうまの方よ
なを言う方強てぬる秘法
む——秘法大徳——きつ——時
きつ——ははは——
ふなりはふ——い——人
女御——ぬおる——ぬい——

。うめしむて

常陸介

うめのふらふらむてふらむて
ふらふらむてふらむて
ふらふらむてふらむて
ふらふらむてふらむて

大臣

入る橋

ふらふらむてふらむて
ふらふらむてふらむて
ふらふらむてふらむて
ふらふらむてふらむて

ふらふらむてふらむて
ふらふらむてふらむて
ふらふらむてふらむて
ふらふらむてふらむて

ふらふらむてふらむて
ふらふらむてふらむて
ふらふらむてふらむて
ふらふらむてふらむて

梅

梅

ふらふらむてふらむて
ふらふらむてふらむて
ふらふらむてふらむて
ふらふらむてふらむて

桐葉の夜

源氏物語のうたを
いふはまはるのうたを
うたふはまはるのうたを
うたふはまはるのうたを

楊家大納言

うたふはまはるのうたを
うたふはまはるのうたを

楊家大納言

うたふはまはるのうたを

うたふはまはるのうたを

大将

うたふはまはるのうたを

うたふはまはるのうたを

うたふはまはるのうたを

権中納言

うたふはまはるのうたを

左衛門佐

うたふはまはるのうたを
うたふはまはるのうたを

えーて花さくらをきくやーの

まほうしやうきものなまー

市蟬忍

父の納言さきには侍のやうに
まじらうとて下へてきかへ
トのちかきやまの山に
はるまじき山に
二条院の東院へす

右衛門将

女 母小野あー

おねのうへの方へおねの

参議うの内々

ねる乳母 母にさる

源氏さききりあつて
うねのまきさるておののりね

三佐力将

クハ

波はわきさるおねのさき
さきさきさきさきさき
かろるさきさきさき
の波さきさきさき

宰相

宰相君

むろくは君の房に雲はなほ
くくは君の房に雲はなほ
春はくは君の房に雲はなほ
人よ

春はくは君の房に雲はなほ

はくは君の房に雲はなほ
はくは君の房に雲はなほ
はくは君の房に雲はなほ
はくは君の房に雲はなほ

兵衛尉

はくは君の房に雲はなほ
はくは君の房に雲はなほ
はくは君の房に雲はなほ
はくは君の房に雲はなほ

藤曲侍

はくは君の房に雲はなほ
はくは君の房に雲はなほ
はくは君の房に雲はなほ
はくは君の房に雲はなほ

山田園梨

はくは君の房に雲はなほ
はくは君の房に雲はなほ
はくは君の房に雲はなほ
はくは君の房に雲はなほ

か将令ぬ

リか乃君たる如く成はりたぬ

一きういふとの路一人

各河ち事

移る者たる武のあまやう

前據^{さきより}す

源義清

わの業。能く人なる事ありあり。
か納まふと成つら。極きい
りよたしむ。ちや弁んぢつもの

うゝとぬい

お節

しめのうゝとぬい。ちや。ちや。

ちや。ちや。ちや。

ちや

うのまはちのちや。ちや。

弁^{へん}。ちや。ちや。

めらふのちや。ちや。ちや。
ちや。ちや。ちや。ちや。
ちや。ちや。ちや。ちや。

伊豫介

いづれに伊あふとふじつとふなり
勢ふやうなりつてもふもふなり
此伊也

伊は清いも人のちあつたあつ
買や。海内をふたふたふた
きいよるも

能人なるお留

源氏大將とく富流の湯候つ
うり信一は一負ふなりし人

大ぬいよの浦もふたふた
あふり湯ぬいよはあつたのち
指をいふ。あつた松れつち
たふたふた

能人なるお留

市蟬のあつた。あつた源氏
あつたあつたのあつたあつた
あつたあつた。あつたあつた
常陸介
あつたあつた。あつたあつた

為人なり魚 イサ 母ありき

あつちや・由・わ・る・は・い・い・る・
ら・や・い・る・り・ー・人

為人なり近ね魚 おきん 母しるわち

か・た・大・将・子・つ・わ・は・わ・い・い・る・
人・よ・う・く・我・た・の・は・魚・ー・わ・い・い・る・

わ・い・ 母曰

自・た・い・い・の・あ・い・る・あ・い・る・
か・ら・り・又・も・い・る・は・い・い・る・人

源・少・明・る・き ア 母ありき

賛・波・も・あ い・い・の・い・い・る 母曰

か・将・少・方 母しるわち

い・い・の・あ・い・る・い・い・る・は・い・い・る・
あ・い・る・り・ー・人

太・宰・大・貳 た・さ・い

源・氏・い・い・る・あ・い・る・
わ・ら・り・あ・い・る・あ・い・る・人

後・前・も い・い・の・い・い・る

父・の・つ・い・い・る・あ・い・る・人

五・弟

源氏あひたるもさうくくみへて
いよの春よりかおるあーの春のこ
女のうらうらもほへるさうくみへて

太宰少貳

おはけ

ツラかのころあはれさうく

又さうくはさうくのあはれさうく
乃かおるさうくはさうく
そ方乃さうくはさうく

明帝

三郎

け二人はさうくはさうく

乃かおる

楊名介

いよの春よりかおる

おはけ

さうくはさうくはさうく

兵部君

もさうくはさうくはさうく
のかり

あまのさのつよ
やつとさあひのあ
寝女

中納言君 あつひのさ
中納言 あつひのさ
寝女

△空蟬

あまのさのつよ 一ふさのさ

△夕都

大羽のあひ 寝女
あめいり介
あえ あつひの上
寝女

あまのさ
あね あつひの上
あえ あつひの上
寝女

夕都上のあ あつひの上
あまのさ あつひの上

あまのさ

△あつむ

あまのさ

あまのさ あつひの上
あまのさ あつひの上
寝女

あまのさ あつひの上
あまのさ あつひの上
寝女

あまのさ あつひの上
あまのさ あつひの上
寝女

あまのさ

あまのさ あつひの上

あまのさ

あまのさ

井あつゝのあつゝ　ふじのあつゝ
あつゝのあつゝ　あつゝのあつゝ
あつゝのあつゝ　あつゝのあつゝ

△末つす花

あつゝのあつゝ　あつゝのあつゝ
あつゝのあつゝ　あつゝのあつゝ
あつゝのあつゝ　あつゝのあつゝ
あつゝのあつゝ　あつゝのあつゝ
あつゝのあつゝ　あつゝのあつゝ

△お葉賀

あつゝのあつゝ　あつゝのあつゝ
あつゝのあつゝ　あつゝのあつゝ
あつゝのあつゝ　あつゝのあつゝ
あつゝのあつゝ　あつゝのあつゝ
あつゝのあつゝ　あつゝのあつゝ

△花のえんあつゝ

△あつゝ



とらふ人あつじよ

かゆふのな

あふふふのふ

このふ

こふふふのふ

かゆふのな

あふふふのふ

あふふふのふ

かゆふのな

かゆふのな

△ふふふ

あふふふのふ

あふふふのふ

かゆふのな

あふふふのふ

あふふふのふ

あふふふのふ

あふふふのふ

あふふふのふ

あふふふのふ

あふふふのふ

あふふふのふ

あふふふのふ

△あふふふ

あふふふのふ

あふふふのふ

あふふふのふ

△あふふ

あふふふのふ

あふふふのふ

あふふふのふ

あふふふのふ

あふふふのふ

あふふふのふ

中つと 倭の

中ね上日

三々婦

心山僧都

中納言君 中納言君

ちえさ ちえさ

つゆり つゆり

大武心方

あーの上母

春ふみの海 春ふみの海

△あー

あまふ あまふ

あーの母

あーの母上

念たお

いふ いふ

中ね 中ね

中つと 中つと

大武 大武

こゝろ こゝろ

あまふ

秋 秋

はの

いふ いふ

さう さう

あま あま

△あま

はの

さう さう

大武

大武 大武

大武 大武

大武 大武

大武

大武 大武

△あま あま

△臨安

あ、あ、あ、あ、あ

ちやうどの宰相

平あいのびを極する

ちんたのめやせ人

詩從內得

九

少壯者曰

大氣內傳

中如左

六書

えんち

きんぎょ

△ 松風

花ちる雪上

明心正身

つとむる

五ノ大

乃中約

ひさし

藏人并内子

右大并 一五五并

△ 一

石上母

かゝあゝの非君の夢

むろり

中村 漢子

僧都

其
 其
 其

△物部

朝の事だ

源

花ちり

あまのふゆえ
あまのふゆえ
ていれえ

△し如

船ののり流るる

夏乃 いふなりあはれ

さ中井 四目

七六井 入學の日

武戸太師 日

大なるき

や井乃 母あやりのち綱さのちのあひこ

小侍 や井乃の

や井乃乳母

幸ね君 いふなり

あふり

あちのり

そちのりよの母

△玉の所

うき

あふのり

少武のつま

三少 少二のつま

花ちのり

△いれ

中ね

花ちのり

△こころ

中ねのつま

ちを

らん いふなり

△か

大ゆのり

あふのり

あふのり

あふのり

わがもへひさしおこもりの君きみの房ふさ

中納言君日ひ

うえん

うえんのたふ

倉くらわさ

宰相さうしやう君きみ結むすの房ふさ

なひー日

いさされ軍ぐん

うまのいせいせのお人ひと

合あふ様やうさ

ちち

お人おひとと房ふさのさ

今いまよりいふよ

合あふむすの房ふさ

今いまよりいふ

奇きむらうらう乃の

むくの君きみいけらの

中ちゆうおひさの房ふさ

むささのうしうし母はは

中ちゆうるえん

さくらさくらのお人ひとと房ふさの

梅うめうえ

大だい武ぶ六むく虎この房ふさ

いささの軍ぐん

内うち侍しやうあいの中ちゆうお

さくらさくらのお人ひとと房ふさの

△おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

△おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

△おろすゝ葉

おろすゝ葉

おろすゝ葉

さうん一急上め房

△島乃り

いふちる軍

△すか河

中物さ君

中ね君

花ちる軍

傍らむしむし上へきや
つれづれにち

おちるの河さ

△よりさやもへる

△お梅

あちる大徳さのいむ

△河

たよる君

たゆき

中物のさ

△さへ

うらさや

小竹河めらめ房

しるさのさや

さうんのさや

△さや

あ

△あ

あさり

中へささ

△さ

何ぞ

多ふ君や、雲の
如く

△
屋
上
本

んつものゝや海上にうゐる
僧部

僧部

あさり

あつちの君
おれの人

少将中尉
め房

中々ないぬ
あまのう
り

侍候
官女

官如

△
ろ
ろ
ろ
ろ

源少ゐん

Mr. G. S. S.

多子

Handwritten signature: *Handwritten signature*

うゑん ぢぢり

少 中 外 庭

あつちをいふ中
あつちをいふ中

得所
寧

寗女

△
三
三
三

たの君

がねの君

あるをうらう
あうのうをうらう

その人の心

あつたのといふやう

うゑんめ^{うきま}ぼう

[illegible]

大らぬものなり

卷之六

侍从君

いふはのゝ
明くさうな
やうなうた

うきよのちりぢり

6

ふまのふふ

あるものか
あるものか

おきの國へ

ちとあつていふ **おひさし**
ちとあつていふ **おひさし**
うんのたふ **おひさし**

うん
うん **おひさし**

うん **おひさし**

うん **おひさし**

うん **おひさし**

うん **おひさし**

うん **おひさし**

うん

うん **おひさし**

こゝろ

よ

中ちゆうののあはれ

ええののあはれ

ああののあはれ

ああののあはれ

き

い

かかののあはれ

ききののあはれ

き

い

ききののあはれ

いいののあはれ

ききののあはれ

ききののあはれ

いいののあはれ

ききののあはれ

いいののあはれ

ききののあはれ

ききののあはれ

ききののあはれ

ききののあはれ

ききののあはれ

